

平成二十一年度小規模事業者新事業全国展開支援事業。通称「地域資源∞全国展開プロジェクト」

# 山湊馬浪軽トラ市

## 「山湊馬浪」の由来

江戸時代における新城は伊那街道の主要な町で、信州方面の物資は信州中馬や三州馬（それぞれ駄賃かせぎの馬方で、二〜四頭だてで荷物を運んだ）によって新城へ運ばれ、川船に積みかえて豊川を下った。

また豊橋方面からの物資は川船で新城へ運ばれ、馬の背に積みかえて信州方面へ送られた。即ち、新城はこの馬の背の陸運と川船の舟運の結節点として繁昌した。

旧来「山湊馬浪」（さんそうぼうろう）といわれるのは往來する馬を浪にたとえ、その馬の浪が入ったり出たりする新城を山の湊といったものである。

また物資を積んで豊川を上下する川船（記録では一二二そうとある）が発着する新

城は、まさに海ならぬ、山の湊にびったりである。

この交通の便と物資の集散は商業をさかんにし、富商を生むと同時に町には大きな商



店や問屋が建ち並び、宿屋、茶店、遊女町まであって市況は活発であった。

こうした町のにぎわいは「参河国名所図絵新城繁昌の図」や「山湊馬浪」の言葉で

当時をしのぶことができる。  
（引用文献「新城市三十年誌」）

## 江戸時代の 交易拠点「山湊馬浪」 復活プロジェクト事業

新城市は江戸時代末期、馬の背を使った陸運と川船による舟運の結節点として大いに繁昌し、その様子は「山湊馬浪」と喩えられる程であった。

往時の活気を取り戻すため、浪のごとく街中に溢れた馬を現代の荷車「軽トラ」に置き換え、地元で育まれた特産品はもちろん、三遠南信地域を中心に点在する地域資源を荷台に乗せ集結させることで市場を形成、広域物流を再び呼び戻すことにより新城ブランドを全国に発信するものである。

## 軽トラ市って何？

物を運んで移動する時、大いに活躍する軽トラ。  
そんな軽トラの荷台をお店にして、たとえば地場産の採れたて新鮮野菜や花、衣類や雑貨などなど、多種多彩なものを運んできたまま対面販売しよう！というちょっとユニークな市場のことです。  
その魅力はなんといっても「安心・安全」、生産者と消費者お互いの顔が見え、会話を楽しみながらお買い物を楽しめることです。



お問い合わせ

新城市商工会事務局

〒441-1326 新城市字中野15番地10

tel 0536 (22) 1778

fax 0536 (23) 5900